

## ～泥炭浮島の動植物～ しんでんづつみ 新田堤

市指定天然記念物

中川地区新田の鳥上坂の東、十分一山の北麓<sup>ほくろく</sup>に人工の堤があります。元来この一帯は白龍湖の周辺と同じく、厚い泥炭層<sup>でいたんそう</sup>で成り立つ大谷地で、水田耕作が難しい環境が続いていました。大正初期から同9年にかけて、伐採や土盛りなど開墾を進めましたが、泥炭層の場所が沈下し、湧水などがたまるので、周囲を高く整備し、堤として活用したのです。地域住民はその堤を新しくできた「新堤」<sup>しんづつみ</sup>と呼んで現在も活用しています。

また、堤に湧水が多くとまると、泥炭層は浮島となって浮き、周りの水量により移動しています。

この堤内の泥炭浮島は、以前の白龍湖周辺の泥炭形成と似た植物相<sup>てい</sup>を呈しています。つまり、現在は白龍湖に見られなくなった動植物などが、この浮島には残っているのです。動物ではハッチョウトンボ、カラカネトンボ、イトトンボ類。植物ではヤマドリゼンマイ、サギソウ、ウメバチソウ、

ツルコケモモ、エゾリンドウ、サワギキョウなど、水性植物ではヒツジグサ、ヘラオモダカなどが見られます。特にサギソウの自生地、ハッチョウトンボ、カラカネトンボの生息地として県内でも極めて貴重で、この泥炭浮島の動植物などは市天然記念物として昭和59年6月12日に指定されました。

環境の変化に伴い、生態系は変わりやすいものですが、現在まで守られてきた動植物がこれからも残ってほしいと願うばかりです。



南陽市文化財保護審議委員 山口吉子  
平成28年8月1日号 市報なんよう掲載